（別紙様式４－１）　 　 　　（県立高等学校・中学校用）

（　熊本県立八代東高等　）学校　平成２９年度学校評価表

|  |
| --- |
| １ 学校教育目標 |
| 商業及び体育の専門的・先進的な教育活動を通して、将来への志を育み、地域の創生に貢献できる資質と能力を育成する。 |

|  |
| --- |
| ２ 本年度の重点目標 |
| 1. 確かな学力を育成し、生徒一人ひとりに応じた指導の充実を図る。 2. 豊かな情操と道徳心を培う。 3. 心身の健康を自己管理する態度を養う。 |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ３ 自己評価総括表 | | | | | | |
| 評　価　項　目 | | 評価の観点 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | 成果と課題 |
| 大項目 | 小項目 |
| 学校  経営 | 教職員一丸となった指導 | ・職員会議及び職員研修等が機能し、教職員の共通理解が図られているか  ・教育目標や現状を踏まえ、教職員が同一方針で指導しているか | ・学年会議や各分掌部の会議を週１回実施  ・教職員の共通理解を図る | ・週時間割に組み込む  ・事前の資料配布や班別協議など効率的な形態を工夫する | Ｂ | ・各学年及び各分掌の会議は定期的に実施できた。  ・職員研修については、同和教育・いじめ防止等の他、情報セキュリティー働き方改革、教育課程、商業検定等が実施できた  ・職員研修では、グループワークを取り入れる等活発な意見交換ができた。会議資料の事前配付については徹底できなかった |
| 保護者との連携 | ・ＰＴＡ総会・学年保護者会等へ保護者が積極的に参加しているか  ・アンケート等により保護者の意見を汲み取っているか | ・ＰＴＡ総会や学年保護者会８割以上の出席を目指す  ・９割の回収率を目指す | ・ＰＴＡ総会を欠席された保護者への連絡会を実施する  ・配布・回収時に趣旨の徹底を図る | Ｂ | ・ＰＴＡ総会の出席率は、目標の８割には達することは出来なかったが、７２．２％で昨年と殆ど変わらない結果であった。  　内容的には、昨年度と違い外部講師を呼んでの講演はできず、授業参観を実施することとなった。 |
| 地域社会との連携 | ・地域行事、ボランティア活動に生徒・教職員が積極的に参加しているか  ・生徒が地域と交流するような機会を作ったか | ・地域行事（八代妙見祭等）や被災地支援等の様々なボランティア活動への参加 | ・同窓会やＰＴＡ等関係機関との連携を図り、参加者増に向けた効果的な呼びかけを行う | Ｂ | ・妙見祭には、世界遺産ユネスコ登録ということで同窓会主催の奉納馬で本校職員や、ＰＴＡ等とともに、多くの生徒が参加し、地域への貢献ができた。 |
| 開かれた学校作り | ・学校行事へ保護者や地域の方々が多く参加しているか  ・体験入学への参加中学生が多いか  ・高校説明会や公開授業及び地域への広報活動は効果的に行われたか | ・学校行事への参加者の増加  ・体験入学へ参加する中学生の増加  ・学校案内やプレゼンテーションの工夫改善  ・ホームページの活用 | ・学校行事などの案内文の早期送付  ・学校紹介パンフレット、プレゼンテーションに生徒の意見を盛り込む  ・ホームページの積極的な更新  ・安心安全メール等の活用 | Ｂ | ・販売実習「東高マーケット」や長距離走大会の馳走会等、朝早くから多くの保護者による協力があった。生徒によるチラシの配布なども行った。  ・学校紹介では生徒の発表が好評であった。  ・ホームページの日々の更新に努め、常に生徒募集  を念頭に置き作成することができた。  ・「八代東高安心メール」では、適宜情報提供を行うことができた。  ・体験入学には２７５名の参加があり、アンケートの結果も良好だった。 |
| 取り入れた学力  向上 | 授業の工夫、改善 | ・基礎的基本的事項の定着を図っているか  ・思考力、判断力、表現力を育む授業が実践されているか | ・公開授業週間の実施  ・研究授業の実施  ・アクティブラーニングの推進  ・校内授業マイスター表彰制度の充実 | ・教職員による相互評価  ・計画的な職員研修の実施  ・研究指定校としての公開授業、検証授業の実施 | Ｃ | ・教育課程研究指定校及びＮＩＥ実践指定校に係る実践を、全職員で共有し、自らの授業実践に取り入れることができた。  ・公開授業及び研究授業を実施したものの、職員相互の参観が少なかった。 |
| 教師の指導力向上 | ・教科の指導力及び専門性の向上に努めているか | ・校外での各研修会や研究会への全教職員参加 | ・研修成果の報告と実践  ・校内報告会（復講）の実施 | Ｂ | ・教職員の教科に関する外部研修会への参加は概ね達成できた。  ・復講の機会を設定することができなかった。 |
| 個に応じたきめ細かな指導 | ・生徒一人ひとりに応じた効果的な支援を行っているか | ・成績不振者への課外指導  ・個別指導の充実 | ・長期休業中の学習課外実施  ・各教科による個別指導時間の確保 | Ｃ | ・長期休業中の成績不振者への課外指導では、部活動大会出場等により、出席率が低調であった。  ・放課後等の個別指導が、職員個々の取組により実施されている。 |
| キャリア教育  (進路  指導) | 進路指導体制の充実 | ・各学年と連携を図り、組織的かつ計画的に進路意識を確立・高揚させることができたか | ・一人ひとりの生徒に自己の個性や適性を理解させる  ・進路意識の高揚を図り、明確な進路目標を持たせる | ・指導方策を検証し、３年間を見通した指導体制の確立  ・総合的な学習の時間やＬＨＲ、学年集会を利用しての進路学習の充実  ・外部講師招聘により幅広い視野を持たせ、望ましい勤労観や職業観についての講習やマナー講習の実施  ・オープンキャンパスや、説明会への積極的参加を推進  ・基礎学力診断テストや職業適性検査による自己理解の推進 | Ｂ | ・３年間を見通しての進路指導計画の見直しを図った。今後も状況の変化を見ながら改訂を行う。就職希望生への基礎学力診断テストの複数回実施・適性検査・就職模擬試験等の導入、進学希望生への対外模試導入等を含めた３年間を見通した計画の改善に取り組む。  ・学年団との連携が不十分な点もあるので、さらなる連携強化に努めたい。  ・ハローワークやジョブカフェ等からの外部講師による講演会は、生徒の進路意識高揚に効果を発揮した。  ・生徒のオープンキャンパスや各種説明会への参加も積極的で、進路決定に好結果を得た。  ・１年生と２年生で適性検査を実施することができた。今後もこのデータを十分に指導に生かしていきたい。 |
| 勤労観と職業観の涵養と進路意識の向上 | ・望ましい勤労観や職業観の育成を図る教育活動ができたか。 | ・生徒の進路希望に応じたインターンシップの実施  ・一日看護体験への参加推奨  ・３年生の就職希望者の企業見学推奨 | ・インターンシップの事前学習や受入事業所との打ち合わせの充実  ・各学年と相談・協力した講演会やガイダンスの企画実施  ・全教職員によるマナー重視の面接指導  ・公務員対策講座の開設  ・２年次からの面接指導実施 | Ｂ | ・インターンシップにより進路意識を高めることができた。これまで以上に信頼関係を構築することのできた事業所もあり、今後に生かしていきたい。  ・進路講演会等については、改善を試み効果的に開催することができた。さらなる充実を目指したい。  ・公務員志望者に対しての１年次からの指導計画を立案中である。早期からの充実した指導を展開していきたい。  ・面接指導等２年生への指導を２学期から始めることができた。今後も充実した指導を展開していきたい。 |
| 進路希望の達成 | ・基礎力養成から応用力養成まで、段階的な指導を行うことができたか  ・一人ひとりの生徒への指導は適切であったか | ・就職内定率１００％、進学合格率１００％を達成する | ・学力分析等を改善するとともに、進学補習（国・英・簿記）や小論文指導（四大・短大・専門学校は一部）を行い、生徒に積極的に参加を促す  ・進学先決定後の入学前指導を含む基礎学力および学習習慣持続目的とするアフター指導の実施 | Ｂ | ・民間企業就職希望者の内定率は、１００％を達成することができた。公務員希望の未内定者が１人である。決定するまで積極的な支援を行いたい。  ・進学希望者は、難関私立大学をはじめ推薦入試制度を有効に利用し、例年どおり健闘したが、国公立大学合格者が直近の５年間で４人・４人・２人・１人・１人と減少傾向にある。１・２年次からの徹底した指導を図りたい。  ・学習のペースメーカーとして対外模試の導入を考えたい。客観的な全国規模での学習到達度を知るとともに、弱点発見もでき効果的な学習指導につながると考える。 |
| 生徒  指導 | 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上  問題行動の未然防止 | ・端正な服装の着こなしができているか  ・遅刻を減少させる  ・誰とでも元気に挨拶を交わすことができるか  ・特別指導件数が減少したか | ・教職員間における服装基準の共通理解を図り、指導の統一を図る  ・年間遅刻平均数を昨年度より３０％減を目指す。  ・自ら進んでその場の状況に応じた挨拶ができる。  ・年間指導件数一桁 | ・同じ基準で指導ができように普段から教職員間のコミュニケーションを図る  ・月に一度の遅刻指導を行う  ・教師側から積極的に挨拶を心掛ける  ・各部・学年、その他関係機関と情報交換を密に行い、組織的な対応 | Ｂ | ・大部分の生徒は制服を端正に着こなしていた。規範意識が低い生徒もいたが先生方と協力して指導を行い改善が見られた。  ・正門の登校指導での遅刻は前年度より約18％減少した。１学期は昨年度より17％増、２学期は34％減であった。）  ・特別指導件数が昨年度より大幅に減少した。しかしながら無断アルバイトが多く、更に未然防止に力を入れる必要がある。 |
|  |  |  |
|  |  | の実践 |  |  |
| 交通ルールの遵守とマナーの徹底 | ・自転車の整備ができているか  ・ツーロックが徹底できているか  ・交通事故が減少したか | ・自転車整備安全点検の徹底  ・ツーロック施錠率１００％  ・交通事故件数０件 | ・学期毎の確実な安全点検の実施  ・月毎のツーロック調査の実施  ・外部講師による安全教室の実施と校外における交通安全指導の強化 | Ｂ | ・学年毎に自転車整備点検を実施したが徹底できないところがあった。  ・学期に１回、ツーロック調査を実施したが、施錠率は前年度より良くなかった。交通委員会を中心に積極的な啓発活動が今後必要である。  ・交通事故件数は昨年度より減少し、交通安全意識の高揚は見られた。 |
| 生徒会活動の活性化 | ・生徒が主体性を持って学校行事等に参加したか  ・委員会活動に積極的に取り組んだか | ・生徒会主催の行事等の企画立案、実践を計画的に行う  ・生徒会執行部が各委員会と連携し組織的な活動ができる | ・昼休みや放課後の時間を有効利用し、質の高い生徒会活動の運営を目指す  ・月に一度委員会活動日を設ける | Ｂ | ・生徒会長を中心に生徒会執行部が積極的に活動を行った。また各行事の準備や運営も責任を持ってやり遂げた。  ・各委員会で連携を図り、共通理解のもと生徒会活動が実践できていた。次年度は、更に充実した生徒会活動が実施できるように生徒への広報活動にも力を入れていきたい。 |
| 人権教育の推進 | 推進体制の確立と研修の充実 | ・人権教育推進委員会による計画的かつ組織的な人権教育が推進されたか | ・人権教育推進委員会の定期的な開催  ・明確な役割分担による各部、各学年との連携 | ・人権教育推進委員会を週時間割に組み込む  ・各部会、各学年会における協議の依頼と情報共有 | Ｂ | ・毎週水曜日に推進委員会  を開催し、計画的に取組を  進めることができた。  ・人権教育ＬＨＲや人権教育講演会について学年会での協議を依頼し、学年との連携を図った。 |
| ・様々な人権問題に関する基本的認識を深め、実践的指導力を高めるような研修が行われたか | ・互いの教育実践経験、成果や課題等の情報交換  ・部落差別をはじめとする様々な人権問題に関する研修の設定 | ・人権教育レポート研修会の実施  ・全教職員参加の現地研修会の実施  ・各研修会の復講 | Ｂ | ・全教職員に教育実践レポ  ートの作成を依頼し、全  職員で学び合えるように  レポート集を作製した。  ・八代地域の現地研修会、  人権教育・人権啓発研究  集会への参加体制を整え  た。  ・研修会における資料を配  布し情報共有を図った。 |
| すべての教育活動を通した取組の強化 | ・教育の根幹に人権教育を据え、生徒一人ひとりを大切にした教育が実践されているか | ・人権教育全体計画における各教科の目標設定と教育実践  ・教育相談の充実  ・定期的な生徒理解研修の実施 | ・公開授業週間の設定  ・各学期における面談週間の設定  ・ＳＣやＳＳＷとの連携  ・人権教育推進委員会における生徒の状況把握  ・各学期における生徒理解研  修の実施 | Ｂ | ・「心のアンケート」と連動して毎学期面談週間を実施した。  ・生徒理解研修は計３回実施した。特に保護者への対応等について、職員間の共通理解を深めることができた。  ・ＳＣとＳＳＷについては保護者・家庭との連携がうまくいくよう活用することができた。今後もこまめな対応を心がけていきたい。  ・毎週開催される推進委員会において、各学年の生徒状況など、情報共有を図った。 |
| 命を大切にする心を育む指導 | ・すべての教育活動において、自己や他者を尊重し、命の大切さについて指導できているか | ・一人ひとりの存在を尊重し、それぞれがかけがえのない存在であることを、学校全体の指導の中で理解させる  ・いじめ問題に教職員・学校が積極的に関わる姿勢を示し、いじめの未然防止と抑止につなげる | ・心のきずなを深める月間の取組として、教職員による講話を行う  ・生徒理解研修を年間で３回以上実施する  ・いじめの認知または通報を受けた際に、組織として迅速な対応を行う | Ｂ | ・心のきずなを深める月間には、生徒会長によるいじめ防止のスピーチを行った。  ・夏季休業中等を利用して、全校生徒がいじめ防止の標語や人権作文を作製する中で自分の生活を見つめ直し、自分や周りの人を大切にする意識高揚を図った。  ・いじめ防止対策推進会議も毎学期開催し、アンケートの結果や最近の保護者への対応の仕方など、外部専門家も交え検討した。  ・保護者からのいじめに関する相談に対し、速やかにSSWにつなげるなど、外部との連携にも力を入れた。 |
| いじめの防止等 | いじめの理解と学校組織としての対応 | ・「いじめは絶対にゆるされない」「いじめは卑怯な行為である」との認識を持ち全教職員がその役割と責任を自覚し、対応できたか | ・いじめはどの学校でも、どの子にも起こりうることを常に認識する  ・いじめのサイン発見シートの活用  ・生徒・教職員の気づきを収集する | ・職員研修をとおして、いじめを許さない・見逃さない人権感覚を身に付ける | Ｂ | ・学期ごとに「心のアンケート」を実施し、職員間の情報共有をはかった。  ・アンケートの実施後、面談週間を利用し、丁寧な聞き取りをすることができた。  ・アンケートに生徒の本心が反映されていないのではないかと思われる面もあるので、さらに情報交換・検討を深めたい。 |
| いじめの早期発見とその対応 | ・すべての生徒を対象に、いじめを許さない未然防止につながる教育に取り組んだか | ・生徒会や総務部との連携を図り、生徒への啓発活動を行う | ・生徒会による「心のきずなを深める月間」のアピール文を発表  ・いじめに関する「心のアンケート」の実施  ・教育相談部ポストの設置 | Ｂ | ・「心のアンケート」を毎学期実施し、ＳＣとも連携して継続的な見守りができた。  ・教育相談部ポストに「困っていることがあります」という投稿があり、SCにつなげるなど、迅速な対応ができた。 |
| 家庭や地域、関連機関との連携 | ・関係機関と連携を図り、学校以外の相談窓口について生徒や保護者に周知したか | ・教育相談部を中心に学校全体で広報活動に取り組み、担任、学年、ＳＣ及びＳＳＷ等との連携を図る | ・合格者説明会やＰＴＡ総会において保護者に対して相談窓口の周知を図る  ・様々なチェックシートを配布するなど保護者への情報提供を適宜行う | Ｂ | ・入学式・ＰＴＡ総会の際は直接保護者に教育相談部について周知し、「心のアンケート」実施時も家庭へ向け「子どものサイン発見リスト」を配布した。  ・保護者が学校に対し不信感を持つことがないよう担任・学年主任・SC・SSWなど複数人で連携して問題解決に取り組むことができた。 |
| 地域連携(コミュニティー・スクール) | 連携体制の構築 | ・八代地区及び本校の学校運営協議会の組織化はできているか  ・防災マニュアルの検討に取り組んだか | ・地域住民及び関係機関と学校の協力体制構築  ・避難所運営のマニュアル作成及び情報の共有  ・関係機関との初期対応の連携体制 | ・学校運営協議会を年４回実施する  ・危機管理マニュアルを作成し、職員に配布  ・町内会長及び小中学校との連携 | Ｂ | ・運営協議会を年４回開催し、特に代陽地区の熊本地震発災当時の各避難所の対応を共有し今後の防災や避難所の対応を充分協議できた。  ・防災マニュアルと避難所運営マニュアルを協議し作成できた。  ・町内会長及び小中学校との連携の基礎づくりができた。 |
| 防災意識の高揚 | ・生徒の心のケア対応の校内体制はできているか  ・教職員のメンタルヘルス対応はできているか | ・防災教育のあり方を検討する  ・カウンセリングマインド等の資質向上 | ・職員の防災関係の研究大会等への参加  ・スクールカウンセラー等の専門家の活用 | Ｂ | ・防災主任研修等へ参加し具体的に、防災体制づくり、防災教育、校内職員研修、防災と各教科のカリキュラムの連携等、防災の基礎作りができた。  ・教育相談部と連携し、心と体の振り返りシート等を活用した。 |
| その他 | 地域からの信頼 | ・生徒の活動が地域から高い評価を得ているか  ・専門高校として地域のニー  ズに答えているか | ・生徒の活躍を正当に評価してもらう  ・学校の専門性を地域に還元する | ・学校周辺や緑の回廊の清掃、地域のボランティア活動への積極的な参加  ・インターンシ  ップや販売実習の充実 | Ｂ | ・通学路沿線の地域清掃活動を１学期に実施した。  ・ＪＲＣを中心に、一般性とにも呼びかけて地域の様々な活動に積極的に参加した。  ・「ＫＡＢ元気フェスタ」、「くまもと物産フェア」等  の外部団体主催行事で販売実習を数多く実施し、地元特産物や地元企業と連携して開発した商品を販売することができた。 |
| 心豊かな性格の形成 | ・読書活動をとおして、生徒たちに多様なものの見方や考え方を身に付けさせることができているか | ・図書の充実を図る  ・朝の読書を充実させる  ・読書実態調査の結果が前年度より向上するように取り組む | ・各教科のニーズに合わせた図書の購入  ・全校生徒に及び全教職員による一斉読書  ・教科やＨＲの依頼に応じた図書館の提供 | Ｂ | ・各教科のニーズに合わせた図書を購入し図書の充実を図ることができた。  ・朝の読書は、取り掛かりに時間がかかる生徒が見られた。次年度は８時３０分からの開始と４原則に則り「みんな」で取り組むことが徹底できるようにしたい。  ・学年団及び、進路指導部と連携し、生徒の進路目標達成に資する資料の補強を行うことができた。 |
| 商業の専門性の向上 | ・ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てることができたか | ・東高マーケットをはじめとした様々な体験的学習を通して、望ましい勤労観・職業観を育成する | ・商業専門科目の授業および学習評価について工夫改善し、更なる言語活動の充実を図る  ・「ビジネス基礎」「ビジネス実務」「マーケティング」における指導方法及び評価方法の工夫改善を図る | Ｂ | ・成果として、生徒の考えを引き出し、そこから興味関心を高める授業及び評価についての工夫を進めることができ、東高マーケットにおいては、商業専門科目の知識を活かし、地域に貢献し、人と人をつなげることへのやりがい等について、達成感や充実感を持たせることができた。  ・課題として、全ての商業専門科目を実学と結びつけるためには、本校で実施している全ての商業科目について、今後検証していく必要がある。 |
| ・資格取得に向けての指導を充実させ進路実現に活かすことができているか | ・各種検定試験の合格率を昨年度より向上させるとともに、個別指導を充実させる | ・検定試験に対する意識を向上させ、検定試験に向けての学習活動を活発に行う | Ｃ | ・成果として、確かな知識を確立するため、各種検定試験にチャレンジさせることができた。  ・課題として、生徒の資格取得に対する積極的な態度が、一部の生徒では見られたが、全ての生徒に伝わっているとは言えない。個々に応じるためにも、検定試験の種別など教師側が研鑽し、精選していく必要がある。 |
| 体育コースの専門性の向上とスポーツリーダーの育成 | ・競技力は向上しているか  ・地域のスポーツ振興に貢献する人材が育成されているか  ・進路の目標が達成されているか | ・九州大会や全国大会への出場及び上位入賞  ・スポーツマンとしてのさわやかな挨拶・返事や清楚な身だしなみの徹底  ・学力の向上を図る | ・重点種目を中心とした指導の強化  ・部活動の枠を越えた生徒指導の推進  ・授業に臨む態度等の醸成 | Ｂ | ・バドミントン・陸上がインターハイ出場、上記２競技と剣道が九州大会に出場した。重点種目の硬式野球・陸上(長距離)・ソフトボールのこれからの活躍が期待される。学習面・生活面においては、指導を要する生徒がいるのが現状であり、体育科職員と部活動顧問が、連携し一丸となっての指導体制が必要である。 |
| 学校改革 | ・学校改革の組織はあるか  ・学校改革（校務改革・授業改革）に取り組んでいるか | ・朝会・職員会議の縮減  ・教師の指導力育成 | ・月水金の朝会  ・定期的な職員会議は設定しない  ・１人１回以上の外部研修会への参加 | Ｂ | ・朝会・経営委員会・職員会議の回数や時間縮減はできた。  ・外部研修会には職員全員が参加できた。  ・研究授業では、ある程度計画通りに進んだが、数名が実施できなかった。 |